

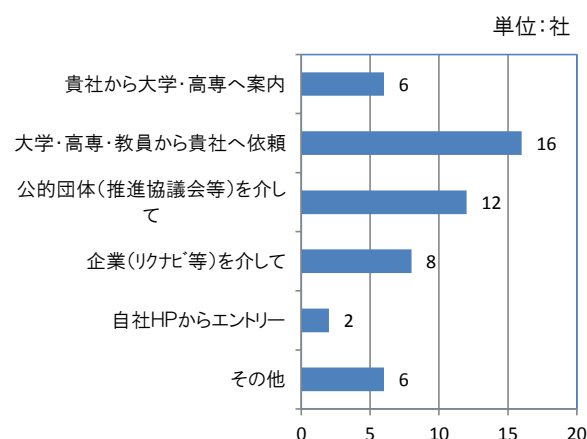
平成27年度
「地域連携型インターンシップ」
実施後アンケート集計結果（企業対象）

北九州地域産業人材育成フォーラム
平成27年10月31日

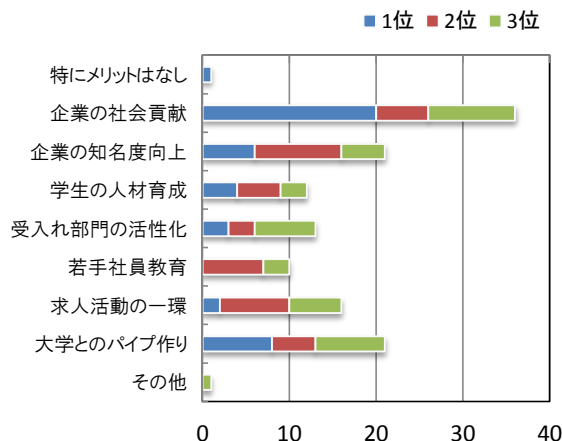
1. アンケート概要

アンケート期間：平成26年8月20日～10月31日
 対象：H27年度 インターンシップ受入れ実施企業 67社
 回収数：44社（回収率 66%）

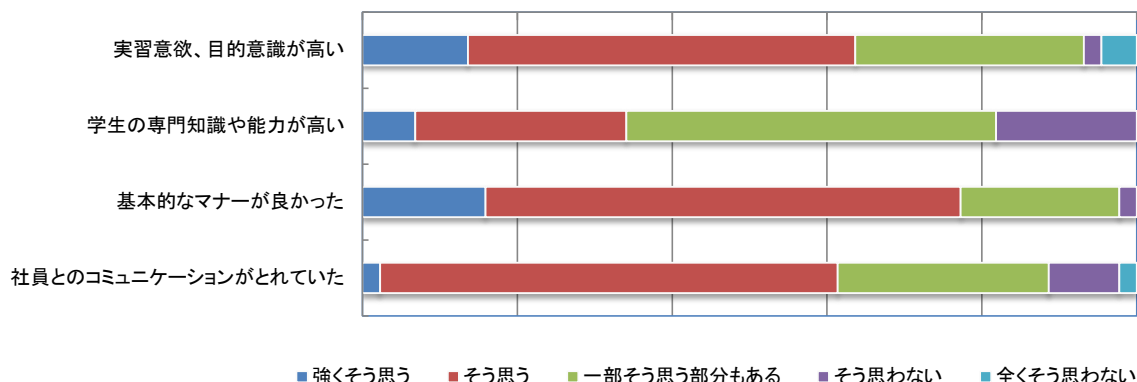
2. 当フォーラム以外でのインターンシップの受入について（複数回答可）



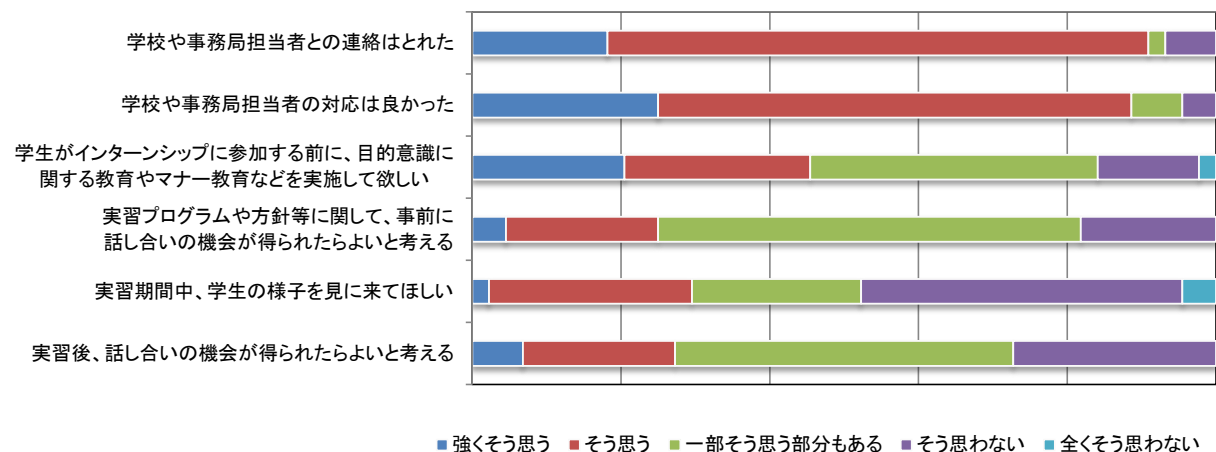
3. インターンシップを受け入れることによるメリットについて（優先順位3位まで回答）



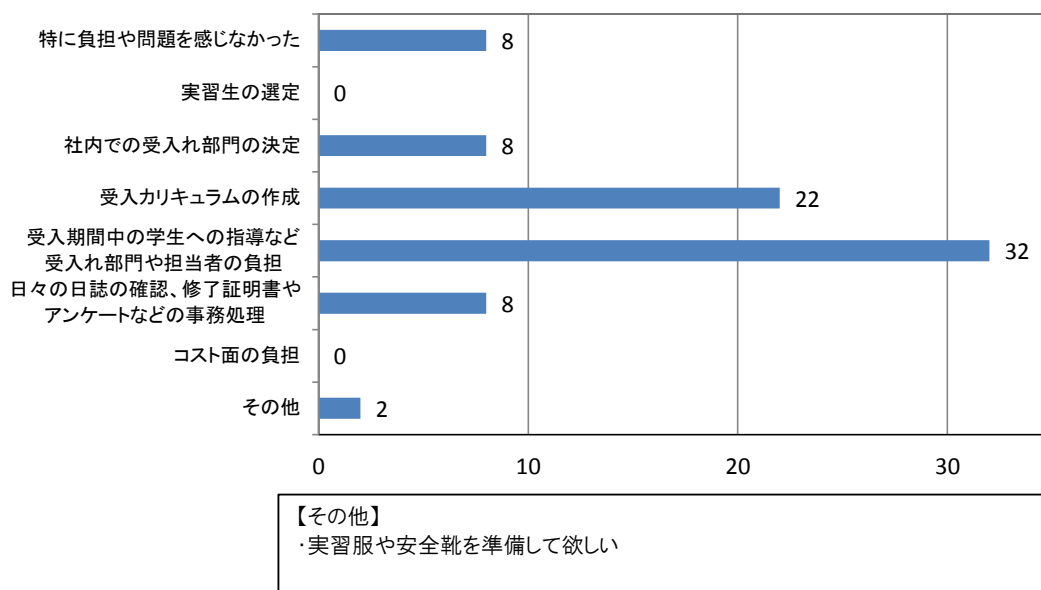
4. 受入れた学生について



5. 学校や事務局の対応について

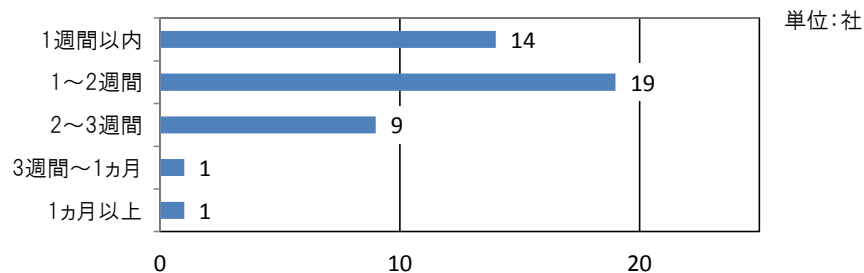


6. 受入に関して、どのようなところが負担や問題になっていると感じましたか。

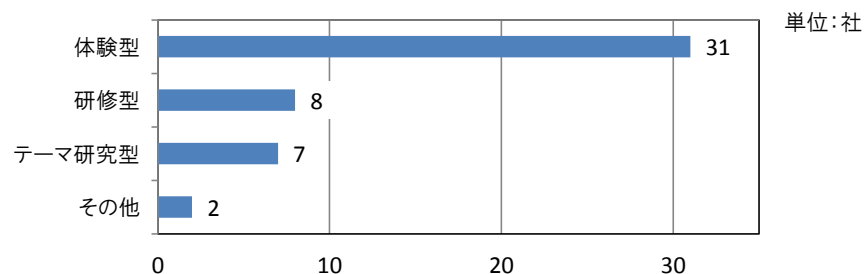


7. 貴社が考える有効なインターンシップの方法について、該当するところに○をしてください。

1) 期 間



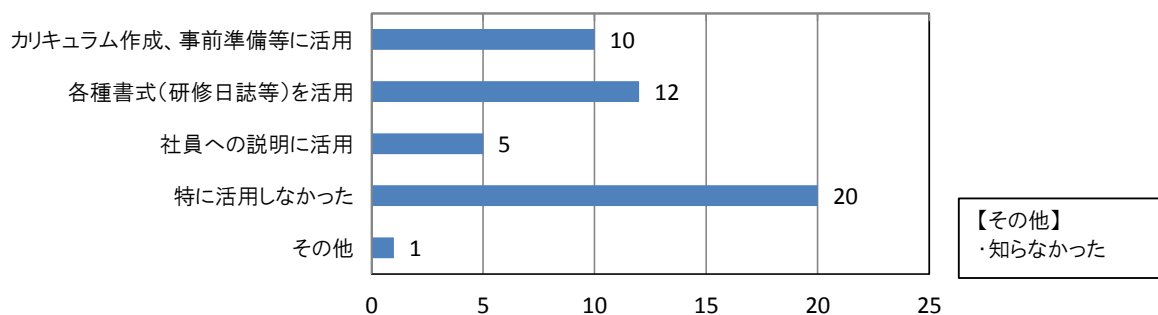
2) 方 法



【その他】
・基本的には、テーマ研究型と考えているが、学生の専攻科により、体験・研修型等検討し対応をする
・体験・研修ハイブリッド型

8. 「地域連携型インターンシップガイドCD」について(複数回答)

単位: 社



9. その他、フォーラムのインターンシップに関するご意見・ご要望・ご感想など(抜粋)

- 今回、インターンシップ期間と台風が重なってしまい、学生のほとんどが、1日参加できない状況となってしまいました。
台風の際は、社会人としての必要な判断として、社員同様、学生の方にも安全面を考慮した自己判断をしていただきましたが、学生が加入している保険内容が分からないため、万が一の場合も想定し、保険内容について大学側と学生とでの確認があれば良いかと思います。
- 「学生がインターンシップに参加する前に、目的意識に関する教育を実施して欲しい」と思います。当社のインターンシップを希望して、来ていただいていると思うのですが、受け身の学生が多く参加意欲があまり感じられませんでした。インターンシップ中に、色々と指導はさせていただいていますが、初日からやる気十分で来ていただけると当社としても嬉しいです。
- 学生の希望職種等が判らないと、カリキュラムが立てにくい。
- 求人活動の一環として考えるならば、学生の希望を聞くだけでなく、企業の求人内容とのマッチングができると良いと思います。
- 学生といえども社会人の一員であり、それを学生として言い逃れすることは許されない。履歴書に張り付ける写真にしても学校側がきちんと指導するべきであり、たかがインターンシップということで軽い気持ちで提出してきた学校側の姿勢にも問題アリと強く思うところである。実は、最初のオリエンテーション時に、名前の書き方を指導した、漢字の書き方、ましてや自分の名前の漢字がアンバランスであり就職時にはそのようなことから評価されるぞ・・・とこのようなことは一度も指摘されたことはなかったと戸惑った様子だったが受講生には、その後すべてのことを素直に受け止めてもらうことができた。毎日提出を求めた振り返りシートについても、「自身の考えを頭でまとめて文章にする。」という最低限の表現力・伝達力に乏しさを感じた。大学で学ぶ専門課程の基礎はそこにあると思うのだが、
辛口で言いましたが来年も引き受けますのでご安心のほど。
- 今回のインターン生は特に積極性が低かったようです。現場のコミュニケーションも少々難儀したようです。
- 学生がどのような研修を希望しているのか、事前に確認できる機会があればより有意義な研修が可能かと思いました。
- 実習報告会をやった方がいいと思います。他社のインターンシップの取組みが判り、今後の受入れの参考等になります。
- 採用目的のインターンシップが増える傾向にあるため、フォーラムのインターンシップのあり方の再定義や学生にとって意義のあるインターンシップにするための更なる工夫が必要ではないか。
(参加人数が減少していかないか)
- インターンシップ学生が、大変やる気をもって研修してくれ担当部署もそれに応えようと熱心に取り組んでくれた。
また、研修終了後に本人から礼状も頂き受け入れ先としては、実施して良かったと改めて感じました。
- 今回のインターンシップを通して、地域への企業のPRにつながるだけでなく、学生の早いうちからの人材育成に貢献できたのではないかと思います。弊社に来ていただいた学生さんには、製品の市場調査から企画、設計まで行ってもらい、弊社のものづくりで重視している理念や、一人ひとりの意見がどのように製品に反映されていくかなど、間近なところで体験していただけたのではないかと思います。
また、弊社に今までになかった新しい発想やアイデアの提案もあり、こちらも勉強させていただく機会となりました。